

平成31年度 栃木県立宇都宮清陵高等学校 学校自己評価

|  |
|--|
| <b>教育目標</b><br>○豊かな思考力に支えられる創造的な知性を持つ生徒の育成<br>○強い意志から生まれる自立的な精神を持つ生徒の育成<br>○知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を持つ生徒の育成 |
|--|

|   |
|---|
| <b>目指す学校像</b><br>○一人一人の進路実現に向けた、きめ細やかな進路指導と充実した学習指導に取り組む学校<br>○規範意識を高め、社会性と自ら進んで行動する力を伸ばさせることに努める学校<br>○特別活動の充実を図り、心身の健康を養い思いやりや協調性をもつ生徒を育成する学校<br>○現代社会の変化に対応できる教養を高めるために、科学技術リテラシー教育を推進する学校 |
|---|

|  |
|--|
| <b>今年度の重点目標</b><br>1. 「深い学び」のための支援を充実し、進路意識の高揚と学力向上を図る<br>2. 学校生活における達成感を味わわせる指導の充実を図り、愛校心を育てる |
|--|

|                           |           |           |
|---------------------------|-----------|-----------|
| 達成度                       | A:十分満足できる | B:概ね満足できる |
|                           | C:満足できない  | D:努力を要する  |
| ※上記の4段階を基に、各領域において達成基準を作成 |           |           |

◇重点目標 1. 「深い学び」のための支援を充実し、進路意識の高揚と学力向上を図る

| 領域 | 具体的な教育活動    | 達成状況   | 達成度   | 次年度への課題 |  |
|----|-------------|--|---|---------|--|
| 部  | <b>教務</b>   | (1)生徒の特性や進路希望に即したクラス編成・類型・教育課程への改善に向け、議論を深める。                              | ・各教科・各部・各学年で、本校の現状と目指す学校像を考慮して、話し合いがもたれた。現在、第2回教育課程検討委員会に向け意見の集約中である。                       | B       | ・よりよいクラス編成・類型・教育課程の整備ができるように、議論が深まるような情報の収集等を進める。  |
|    | <b>学習</b>   | (1)情報を活用した学習及び他者と協働した学習の機会の創出と実践支援。<br>(2)日々の学習サイクルの定着及び自主学習の実践支援。         | ・ICTを活用した授業の環境整備は進みつつあるが、「活用」という面で職員間、教科間で温度差が見られた。   | C       | ・学力向上推進委員会や各部・各学年との連携を密にした生徒の深い学びや自主学習の充実への支援強化。<br>・ICTを活用した授業の実践研究・現職教育を推進する。  |
|    | <b>図書</b>   | (1)図書館を活用した行事の充実にも努めるとともに、購入希望図書や進路研究に適した図書を充実させて、読書・学びの場として整備する。          | ・清陵祭では例年の製作以外に図書館クエストやカフェを企画した。<br>・机脇にちりつりの設置やライトノベルの書架の設置など学習の場としても本に親しむ場としても拡充することができた。  | A       | ・貸し出し数の増加。来館者は増えたが、なかなか貸し出し数が伸びない。その生徒たちにかに借りてもらおうか工夫する。   |
|    | <b>進路</b>   | (1)進路行事で意識を高め、希望進路に向けて生徒が意欲的に学力を向上させることができる環境を整える。                         | ・行事が充実した。3年の志望理由書も事前準備させることができた。<br>・自主的に学習に向かう姿勢が生徒によって大きく違っていた。<br>・Classiの振り返りも定着してきた。   | B       | ・新入試制度、新課程等に向けて行事、推薦基準の見直し。<br>・学習指導部と連携しながら授業第一の姿勢を育てる。<br>・生徒一人ひとりの進路意識の高まり度合いを確認していくサイクルを作る。<br>・自主的に学校生活に取り組む気持ちが高められるような具体的な方策を講じる。 |
| 学年 | <b>1学年</b>  | (1)自学自習の習慣の確立。<br>(2)基礎学力の定着と思考力の育成を図る。<br>(3)生徒の現状を把握するため、面談等を充実させる。      | ・一部遅れがちな生徒がいるものの「朝学」の参加状況は良好。学校生活の基礎は身についてきているが、学習習慣の定着はまだ不十分である。                           | B       |  |
|    | <b>2学年</b>  | (1)朝の学習や放課後における教室、図書室の利用を促し、学習時間を確保するとともに「やればできる」を実感させる。                   | ・行事や面談により進路意識は向上しつつあるが、学力の向上にはあまりついていない。自主的な居残り学習は定期テスト前だけにとどまっている。                         | B       | ・資格取得などで生徒のやる気を引き出しながら、朝学への取り組みを含め、入試を意識した自主学習の習慣を身に付けさせる。   |
|    | <b>3学年</b>  | (1)図書館・教室での放課後の自主学習を奨励する。また、学習面でのサポートを受けやすい環境作りを心掛け、学力の向上を図る。              | ・放課後の学習支援(19時まで)もあり、例年以上に図書室や教室で自主学習に励む生徒が多く、学習姿勢も良好であった。                                   | B       | ・学校全体で放課後支援を行えないかを検討する。(ストップの使用。自習場所を統一させ、質問を受け付ける場所を設ける。等)  |
| 教科 | <b>国語</b>   | (1)「漢字コンクール」を軸として、国語力の基礎となる漢字能力の育成を図る                                      | ・どの学年も前年度よりわずかに平均点が下回った。生徒の取り組みは良好で、学年進行で確実に合格者は増加し、不合格者は減少している。                            | B       | ・漢字学習への意識づけと、習熟度の低い生徒に対する個別の指導内容を工夫していく。   |
|    | <b>地歴公民</b> | (1)四大受験までを見据え、進度を確保しつつ、授業や定期考査に入試問題等を積極的に取り入れ、進路意識を高めるとともに内容の濃い復習に結びつけさせる。 | ・各科目でノート作成状況の確認や、授業や定期考査に入試問題等を取り入れる程度だったが、内容の濃い復習や知識の定着には不十分な指導となってしまった。                   | C       | ・基本的な知識の定着を図るに加え、思考力や判断力、表現力等の力を育むための指導や、復習を習慣化させる工夫が必要。   |
|    | <b>数学</b>   | (1)発問内容や学習活動の工夫に努めることで、主体的な学びを促す。また、知識を活用した問題への適応を高める。                     | ・小テストや単元テスト、テストの振り返り等を用いて復習サイクルの確立に努力した。授業公開週間を利用し、教科内で授業を参観するなどして、主体的な学びの視点からの情報交換を個別に行った。 | B       | ・学年担当間で学習内容の精選と重点化した情報は共有して引き継ぎたい。基礎基本の定着のための学習サイクルの構築や主体的な学びの促進のための教授法など、教科全体で研究・共有を進めていく。  |
|    | <b>理科</b>   | (1)授業において生徒が主体的に取り組む教育活動を推進し、論理的思考力の育成を図る                                  | ・授業や実験の中で考えさせる機会を増やすことができた。また、定期考査で実験結果から考察するような問題を出題できた。                                   | B       | ・意欲的に自ら学ぶ姿勢をどのように身につけさせるか。実験・観察の時間と問題演習のバランスをどう取るかが課題である。  |
|    | <b>英語</b>   | (1)「英単・構文コンクール」と「Weekly Test」により、語彙力の強化と文法知識の習得を図る。                        | ・テストへの学習習慣が身に付き、しっかりと準備して臨む生徒が増えた。不合格者への指導が不十分だったので、改善していく。                                 | B       | ・前回の不合格者への事前指導。<br>・統一方式の検討(以前の実施方法)<br>・英単コンへの学習習慣の強化を図る。   |
|    | <b>科学技術</b> | (1)科学技術の発展と利便性を学びながら、基礎的な仕組みや理論を理解させ、実験・実習に積極的に取り組ませる。                     | ・SLTを通して様々なことに興味を持たせることができた。また、科学技術について実例を挙げながら理解させることができた。                                 | B       | ・SLTに対する取り扱いが、教員によって温度差がかなりあったので、是正していく。   |
|    | <b>情報</b>   | (1)情報モラルやネットマナーを身に付けさせ、学びを深める手段としてのICTリテラシーを向上させる                          | ・PC操作に慣れていない状況から考えると、タイピング等のスキルは身についた。モラルに関しては、より具体例を挙げて指導する必要がある。                          | B       | ・毎年担当者を固定する等指導体制を整える。<br>・教員側がSNS等の現状を具体的に生徒に伝えていけるように情報収集を行う。またそれを共有する。   |

◇重点目標 2. 学校生活における達成感を味わわせる指導の充実を図り、愛校心を育てる

| 領域 | 具体的な教育活動 | 達成状況   | 達成度   | 次年度への課題 |  |
|----|----------|--|---|---------|--|
| 部  | 生徒       | (1)交通ルールの遵守・交通マナーの向上と交通事故の防止<br>(2)ネットトラブルの防止に対する意識の向上                 | ・安全委員が啓発活動として職員とともに交通指導に参加した。ルール遵守やマナー向上は、まだ物足りない点も多い。<br>・ネットトラブルは各学年に発生したが、大きな問題にまではならなかった。講演会を実施し、リーフレットの配布を積極的に行った。 | B       | ・引き続き生徒への注意喚起を積極的に行う。委員会やLHRを利用し、生徒自身の課題として考えさせる時間を増やすよう努力する。    |
|    | 特活       | (1)各行事への生徒の自主的・積極的な参加を促し、活発な行事になるよう支援していく。                             | ・先生方の指導により、多くの行事で生徒の自主的な活動が見られた。学年によって行事への温度差がある。   | B       | ・学年の進行に従い自主性や責任感が育まれ行事への参加の仕方も変わってくるので、学年を通して活発な行事になるよう支援していきたい。 |
|    | 健康       | (1)清掃活動への意識の高揚をはかり、生活環境の改善、充実をはかる。                                     | ・清掃開始の予告放送を入れることによって、清掃への切り替えや分担区への移動を意識して行動できる生徒が増えてきた。<br>・清掃用具を補充したので、円滑な清掃活動ができるようになった。                             | B       | ・美化委員会の活動が少なかったため、「清掃強化週間」を学期に1度設けるなどして、活動機会の拡充を図っていきたい。         |
|    | 渉外       | (1)学校と保護者との連携を円滑に行い、本校の教育活動を活性化させることにより生徒の愛校心を育てる。                     | ・PTA総会への参加は少なかつたものの、球技大会や清陵祭などの行事にPTAが積極的に関わり、保護者の意識向上が図れた。   | B       | ・HP等での情報発信を積極的に行い、役員だけでなく一般の保護者の清陵高校への意識を向上させていきたい。              |
| 学年 | 1学年      | (1)こまめな指導を通して服装・頭髪の乱れ防止を図る。<br>(2)時間厳守を徹底する。<br>(3)クラスの連帯感を高める。        | ・学年の教員一丸で丁寧に取り組んだ結果、服装頭髪検査の日に合わせて整えてくれることができる生徒が増えた。良好である。<br>・一部の生徒が、授業開始時刻や、提出物の期日を守れない。                              | B       | ・規範意識を高め、社会生活で求められる最低限の資質を身につけさせる。積極的に何事にも参加する自主性と意欲を喚起する。       |
|    | 2学年      | (1)さわやかな挨拶、場に応じた言葉遣い、迅速な行動等を通してお互いを認め合い高め合う                            | ・学校祭や修学旅行などの行事を通して、意識の変化がみられ周囲への思いやりや協力意識が育まれた。   | C       | ・その場でその場での挨拶や服装などの指導を通じて、受験を控えた主要学年であることを意識させ、自律的な生活を送れるよう指導する。  |
|    | 3学年      | (1)学校生活のさまざまな場面でのマナーの向上と、学校行事に対する取り組み姿勢の強化を図る。                         | ・マナー全般は概して良好であった。また、学校行事への取り組みも素晴らしかったが、愛校心の育成に関しては、やや低調であった。   | B       | ・推薦の時期だけでなく、年間を通して指導を継続させる。<br>・生徒が参画意識を持てるような指導を模索する。           |
| 教科 | 保健体育     | (1)自らスポーツに親しむことの楽しさや喜びを実感させる。  | ・活動種目を選択して行うことで友人と楽しく活動することができ、自ら体を動かす楽しさを味わうことができた。<br>・新体力テストから改善すべき項目の理解はできつつも、行動に移し、習慣化されるまでには至らなかった。               | B       | ・スポーツをするだけでなく、見ても楽しむことができるように、競技特性やルールなどを理解できるように努めていきたい。        |
|    | 芸術       | (1)生徒が主体的に取り組み、積極的に自己表現することにより達成感を味わえるよう授業の展開を工夫する。                    | ・各教科では教材を工夫し、生徒が積極的に自己表現でき、達成感を味わえるようになってきていると思う。生徒の主体性をもっと育てると良いと思う。   | B       | ・発表の場や評価方法の工夫によって、自己表現が他者との関係に発展させられるよう授業の展開の工夫がさらに必要だと思う。       |
|    | 家庭       | (1)体験活動を多く取り入れ、実生活に応用できる力を身につけさせる。<br>(2)実験実習に関して事後評価の工夫をし、生徒の意欲を引き出す。 | ・実験実習や生徒が主体的に取り組める教材を多く取り入れ、実生活に応用できる工夫ができた。  | B       | ・生徒達の食いつき方に個人差が大きい。体験的な内容を授業や生活においてどのように活用できるか考えさせる機会を持ちたい。      |

◆保護者及び生徒アンケート

「重点目標1」に関する「学力向上や進路意識の高揚」への取組においては、生徒・保護者から概ね良好な評価を得ている。しかし、それらの取組が授業外での学習活動へつながっていない。新しく導入したICT機器の活用や現行の行事の改善が望まれている。  
「重点目標2」に関する「学校生活を有意義に送っている」「入学してよかった」は昨年度から好転している。「主体的に取り組む解決していく力」については認識の差が生徒と教師間で大きい。様々な観点から現在の取組内容を分析し、支援の修正が必要といえる。

◆学校関係者評価

普通科として学習面の強化が必要。模試結果を分析し質と量の改善を図るべき。また、学力アッププランで見えてきた各教科が抱えている問題を、教科を超えて連携し、論理的・科学的に考え、表現できる力(偏差値で測れない)を身に付けさせて欲しい。  
科学技術教育やPTA活動について保護者が実感していない。高校選びにおいて、保護者の意見は重要である。広報活動の必要性を感じる。また、部活動を活性化し生徒が集められないか。  
本校教育力の向上と活性化に向けて、ねぎらいの言葉とともに、以上のような意見を頂いた。

◆重点目標における総合評価

| 評価基準 | (1)各達成度に対し、「A:7点」、「B:5点」、「C:3点」、「D:1点」を乗じて点数化する。   |         |         |       |   |   |     |       |         |         |       |
|------|--|---------|---------|-------|---|---|-----|-------|---------|---------|-------|
|      | (2)点数化した合計点を課題数で平均化(評価点)し下表に従い総合評価する。  |         |         |       |   |   |     |       |         |         |       |
|      | <table border="1"> <thead> <tr> <th>総合評価</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価点</td> <td>6.0以上</td> <td>5.9~4.0</td> <td>3.9~2.0</td> <td>2.0未満</td> </tr> </tbody> </table> | 総合評価    | A       | B     | C | D | 評価点 | 6.0以上 | 5.9~4.0 | 3.9~2.0 | 2.0未満 |
| 総合評価 | A  | B       | C       | D     |   |   |     |       |         |         |       |
| 評価点  | 6.0以上  | 5.9~4.0 | 3.9~2.0 | 2.0未満 |   |   |     |       |         |         |       |

| 重点目標1   | 重点目標2   |
|---|---|
| <p>「深い学び」のための支援の充実を目指し、校内授業公開週間の実施や中堅研を利用した現職教育が行われた。更に、若手教員を中心に他校の授業見学や予備校主催の研修会への参加も増え、指導力のスキルアップが図られている。行事や面談、昨年度導入したClassiによる「振り返り」によって生徒の進路意識の高揚が感じられる。しかし、実際の学力の向上に目に見える大きな成果が上がっているとは言いがたい。現行の取組を検証し学校全体として、効果的かつ有効な方策を考えたい。</p> | <p>放送委員(清掃開始の予告放送の実施)や応援委員(野球応援でのチアダンスの披露)などで生徒の自主性を活かす新たな試みがなされた。教員は学校行事等で成功体験をさせるなど、自主的な活動を促す指導を心がけてはいるが、現状や生徒の変容はまだ不十分であると捉えている。また、Classiなどにより自分の良さや成長を認識することも学校満足度を上げることに役立っていると考えられる。授業や学校行事を通し、生徒が有意義で充実した学校生活が送れていると実感できるように様々な角度からの支援策を講じていきたい。</p> |
| B<br><br>(4.85)   | B<br><br>(4.80)   |